

## 維新・音喜多氏、差別あおり成立迫る

入管法をめぐり、日本維新の会の音喜多駿政調査委員長が連日、人権軽視の暴言をくり返し、改悪案の成立を迫っています。

立憲民主党は一日の参院法務委員会理事会で、杉久武蔵議員（公明党）が職権で改悪案の採決を強行しようとしたことを受け、同氏の解任決議案を参院に提出。音喜多氏は同日、自らのツイッタード「なんの生産性もない時間稼ぎの昭和の戦術」と攻撃し、「入管法の議論は十分に深ま（つた）」「速やかに成立を」と主張しました。

政府は、「難民申請者

の中に難民はほとんどない」と発言した難民審査参与員の柳瀬房子氏の発言を改悪案の「立法事実」としています。どちらが、同氏が関与した審査件数が年間審査総数の4分の1にのぼる異常な多さで、審査の適切さに重大な疑問が生じており、法案の不合法が崩れています。

「議論が深まる」どころか、立法事実が「總崩れ」となっています。

音喜多氏は2日、「自身のブログで「不法滞在者が日本社会の秩序・治安を乱している」と外國人差別をあおるテーマを吐き、「（改悪案は）着実に

前に進めるべき」だと主張しました。

維新はこの間、「人権は尊重だが、あまりに理屈を追求しすぎると社会の秩序が維持できない」（音喜多氏、5月23日の参院法務委員会）、「国益などして人権もなし」（鈴木東回院国会議員団副代表、同30日の同委員会）などと述べ、外国人の基

本的人権を敵視してきた。改悪案の立法事実が崩れるもとで、全く反省なく人権侵害の暴言を繰り返し、採決・成立を迫る維新に、国政政党としての資格が厳しく問われます。

（田黒健太）

## 入管法改悪案 連日の暴言